2018 年 12 月号（通算第 189 号）　編集発行　浦和西高斜面林友の会

どんぐり

実生

〒330-0042　さいたま市浦和区木崎 3-1-1
埼玉県立浦和西高内　浦和西高斜面林友の会事務局　電話 048-831-4847
メール件名は「斜面林」と記入してください。
入会の申し込み、問い合わせメール　o-gami@jcom.home.ne.jp
『実生』投稿受付　ashinagako@gmail.com
ホームページ　http://un-shamenrin.wix.com/un-shamenrin

《11 月 10 日》

天　　気：晴れ

参加人数：31 名
　　生徒 21 名

活動内容　①腐葉土を畑にまく
　　②焼きいも

暖かくて焼きいもの焚き火で汗をかくほどですが、美味しかったね

① 腐葉土を畑にまく

さつまいも畑に腐葉土をまきました。先月開放講座で観た映画「武蔵野」の中で描かれていたことを西高の畑でもやっています。毎年落ち葉を集め腐葉土を作り畑にまく、同じことの繰り返しですが、その中にこそ価値があるように思います。

今年はたくさんの西高生が参加してくれたので腐葉土をリヤカーで運んだり、まいたりしてくれました。

② 焼きいも

焼きいもをする前の準備として、おいもを洗ったり新聞紙に包んだりします。準備にも西高生が参加してくれたので、大変はかどりました。

火起こしはいつもの名人和田さんが担当です。

火起こしもできるようになったら『焼きいも名人』の称号がもらえるそうです。

[新人さんいらっしゃーい]

PTA 本部の 八木妙子さん
　　庄司純夫さん

今月も PTA 本部から参加がありました。

そして西高生は 21 名も！

部活の終わった生徒たちも参加していたようなので、もう少し多いと思います！

焼きいもは元々2013 年に生徒会から「学校で斜面林の人と焼きいもやりたい」という声があり、中村会長と鈴木紀雄先生のご尽力で始まりました。その時は斜面林活動の後で大人と生徒とで 10 名ぐらい細々でした。

今では秋の風物詩ですね(^^)

名人和田さんが火を起こすと、赤々と炎が高く燃えます。
火を起こすことはかなり難しいそうです。
いよいよ焼きいもが出来上がりました。
西高生は、リンゴやマシュマロを持ってきて火の中に放りこんでいました。おにぎりやチョコレートを持ってきている生徒もいました。何を焼くと美味しいのか実験しているようで楽しそうです。
最近の子どもたちは焼きいもの経験がないそうです。
確かに自分の子どもが保育所の時（1994 年頃）は、秋になるといも掘りに行き、そして園庭で焼きいもをしていました。ところが７つ下の子どもの時は、ご近所さんから「煙がきて困る」といった話が出て対応に困っていました。最近では保護者から「子どもに火を使わせたら危ないのでは？」という問い合わせが出るという話も聞きました。焼きいもはもう、コマ回しなどと同じ昔遊びの部類に入ったようです。
「何かあったら困る」「誰が責任を取るのか」と言って大切な経験ができなくなることもさみしいなあと感じています。
このような思いの行き違いは、きっとコミュニケーション不足から起きているのかしら？と思いますが、西高では先生方と斜面林友の会とのコミュニケーションがしっかり取れていて信頼関係にあるから焼きいもができるのだと思います。
西高の環境は貴重です。
ずっと大切にしていきたいです。

名人和田さん

燃える炎

焼きいもできた！

[紅葉便り]
12 月に入り、西高斜面林は見事な紅葉の姿を見せてくれています。
混雑した観光地に行かなくても、地元で紅葉狩りが出来るなんて、見沼の自然は財産ですね。開発が進む現在で奇跡的にここまで残ってくれました。“自然と共に生きる”ことが人間にとっても本当は心地よい空間だと斜面林活動をしながらいつも肌で感じています。
（写真提供：山崎和男さん）

［おがキンちゃんのひとりごと］

温暖化のせいか、今年は一段と秋が遅くなっている気がします。 斜面林の落ち葉は今がピークでしょう。温帯から亜寒帯の木々の多くは秋に葉を落とすのに、もっと寒い寒帯の木々は葉を落としません。古い葉より新しい葉の方が良いに決まっています。でも、葉を作るのに栄養分と一定期間が必要です。温帯から亜寒帯の植物は葉を落としても、採算が合うのでしょう。もっと寒さの厳しい寒帯の植物は新しい葉を作るコストが大変だから、かえって常緑なのでしょう。
生きるとは経済そのものですね。クリスマス定番のもみの木は、厳しい高緯度の冬に贈り物を待つ象徴でもあるのでしょう。 （小川　均）

《2018 年度の浦和西高斜面林友の会作業は、基本第２土曜日 9:30～11:30 に行います》

１月 12 日（土）、２月９日（土）、３月９日（土）集合は地学教室です。